チャイルド・エイド・アジア

Friendship コンサート

２０１７

開催報告書

【企画・製作・主催】

Little Creators

特定非営利活動法人リトル・クリエイターズ
〒107-0062　東京都港区南青山 2-2-15　ウィン青山 1403
www.littlecreators.jp/　　www.childaidasia.com/

【パートナー】

Little Arts Academy　10 Square@Orchard Central（シンガポール）

The Smile Team（マレーシア）/ Cadenza Music（インドネシア）/ Atek Jacinto Studio（フィリピン）

【後援】

厚生労働省／駐日シンガポール共和国大使館／駐日マレーシア大使館／駐日インドネシア共和国大使館／駐日フィリピン共和国大使館／The Business Times Budding Artists Fund（シンガポール）

【協力】

東京都石神井学園／聖園子供の家／Rumah Charis（マレーシア）

【助成】

Singapore International Foundation

【フード・スポンサー】

SAKANEKE & Co.

【写真】

髙橋正美／池上直哉

『チャイルド・エイド・アジア～Friendship コンサート 2017』の開催について

今回第２回目になる『Friendship コンサート』は、駐日シンガポール大使ご夫妻（H.E .Mr. & Mrs. Chin）、在シンガポール日本国前大使ご夫妻（竹内大使閣下ご夫妻）にご臨席いただき、3月 29 日（水）、牛込箪笥区民ホール（新宿）において開催しました。出演者は日本（オーディション合格者、児童養護施設東京都石神井学園の子どもたち、チャイルド・エイド・アジアの OG）、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピンの子どもたち 22 人で、これまでリトル・クリエイターズが開催してきたチャリティ・コンサートに比べると規模が小さいものではありましたが、春休み中ということもあってリハーサルの時間を長く取ることができ、色々なバックグラウンドの子どもが密に共同作業をするには効果的で刺激的な会となりました。

また 2017 年は日・マレーシア外交関係樹立 60 周年にあたることから、オープニングではマレーシアを特集し、会場ロビーでは日本（聖園子供の家）とマレーシア(Rumah Charis)の児童養護施設の子どもたちが交換をした絵手紙を展示しました。音楽だけでなく美術でも、各国との交流を進めています。

■『チャイルド・エイド・アジア～Friendship コンサート』開催概要

2017 年	3月 25 日	午前	東京都石神井学園ワークショップ
		午後	海外出演者到着
	3月 26 日	午前	海外出演者文化体験：日本庭園鑑賞
			海外出演者文化体験：風鈴絵付け体験
		午後	リハーサル　於：スタジオノア（池袋）
	3 月 27 日	午前	リハーサル　於：東京芸術劇場
		昼食	東京都石神井学園＋海外出演者交流会
			於：ホテルメトロポリタン東京池袋
		午後	オリエンテーション　リハーサル　於：東京芸術劇場
	3 月 28 日	午前・午後	リハーサル　於：東京芸術劇場
		夜間	リハーサル　於：牛込箪笥ホール
	3 月 29 日	午前	リハーサル　於：牛込箪笥ホール
		午後	オープン・リハーサル　於：牛込箪笥ホール
		夜間	コンサート　於：牛込箪笥ホール
	3 月 30 日		海外出演者帰国

【開催の成果】

■ 社会的ハンディのある子どもの活躍

「合唱以外のことにも挑戦してみたい」という児童養護施設の子どもの声を聞いて企画された『Friendship コンサート』では、音楽以外の表現方法でどれだけ彼らが舞台の上で活躍ができるかが鍵です。

- **リトル・クリエイターズ活動紹介**

年度末ということもあり、東京都石神井学園の子どもたちは、新学期に向けて環境が変わったり、行事が重なるなどして、参加できる人数が限られましたが、特に積極的に希望した６人が参加しました。全員が舞台上でセリフを言いたい、英語を少し使ってみたいという希望を持ち、それに応えてコンサート中のリトル・クリエイターズ活動紹介を担当しました。直前にインフルエンザにかかり稽古に参加できなかった子を助けるためにセリフの振り分けを変えたり、うまくできなかった時のために代わりにセリフを暗記したり、シンガポールから参加している司会者に英語の発音を習ったり、と子どもたちが自主的に舞台に立つ準備を行う姿に成長が感じられました。

- **ダンス参加**

ミュージカルメドレーの部分では、歌だけでなく、他の出演者が歌ったり演奏したりする中、バックダンサーとして振付を覚え、舞台に彩りを添えました。コンサートのメドレーは色々な分野の子どもがごちゃ混ぜになって長い時間を稽古に費やすため自然と交流が深まり、また付き添いできている親御さんからのお世話も受けながら、児童養護施設の子どもたちは穏やかに楽しくチームの一員になることができたようです。

- **司会**

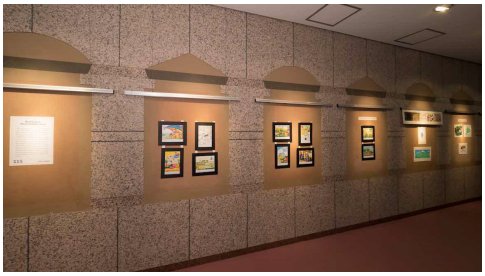
石神井学園を卒園して社会人となった 17 歳のかつき君がオーディションを通過して司会者に。リトル・クリエイターズの活動を支援しながら、同じような環境に育つ世界の子どもを助けたいと頑張っています。

- **合唱参加**

今までのコンサートと同じようにテーマ曲や「未来へ」の合唱に参加すると同時に、フィリピンの出演者のバックコーラスとして「Tomorrow」のサビを英語で歌いました。

- **美術作品紹介**

昨年度から毎月開催している児童養護施設 聖園子供の家



の美術ワークショップで子どもたちが作った作品を舞台上や当日配布プログラム、会場ロビーで紹介しました。今年はマレーシアの Rumah Charis の子どもたちと交換した双方の作品も展示し、ミニ展覧会となりました。

- **コンサート鑑賞**

聖園子供の家の子どもたちや東京都石神井学園の関係者がコンサートを観覧、惜しみない拍手を仲間たちに送ってくれました。特に、石神井学園の子どもが舞台の上から聖園子供の家の子どもに声をかけお互いに手を振る姿は微笑ましいもので、会場からの拍手も暖かく、両児童養護施設の子どもたちも外に支えてくれる仲間がいることを感じたようです。

■ 若い才能の発掘

今回は、邦楽でのオーディション応募者がいなかったことに代わり、洋楽のジャンルや楽器の種類が増えており、これまで応募数が多かったピアノやバイオリン以外にチェロ、クラリネットなどの参加がありました。

また、体調を崩して本番直前に歌うことを断念したフィリピンのボーカリストをみて、手伝いに来ていた OG の矢口桃子さんや吾妻真優さんが彼女の代役を見事に果たしました。層の厚い OG、OB が積極的に手伝ってくれています。

現在、『ChildAid Asia@クアラルンプール』（2017 年 8 月 26 日・27 日）にクラリネットの伊藤修栄さん、ボーカルの藤田ひとみさん、、『ChildAid Asia@ジャカルタ』（2017 年 9 月 23 日）にピアニストの四宮妃望さんの出演が決定しており、他にもシンガポールの『ChildAid』などに OB・OG が出演を期待されています。

■ 日本、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピンの交流

『Friendship コンサート 2017』には、シンガポール、インドネシアからそれぞれ 1 人、マレーシアとフィリピンからはそれぞれ 2 人が来日し、日本の 15 人（聖園子供の家の美術作品参加人数はのぞく）と舞台を作りました。

『Friendship コンサート』ではほぼすべての楽曲が国際コラボレーションで、各出演者が事前に一人で練習をして、コンサート前の数日間に他の演奏者と合わせる作業を行いました。東南アジアでは必ずしも皆が西欧音楽の楽譜を使っているわけではないので合わせる作業がスムーズな場合とそうでない場合がありますが、そこを乗り越えるのも醍醐味

のようで、乗り越えて曲をもっと自分たちのアレンジにしていこうという段階になると自ずと心が通い合うようです。
コンサート終演後ロビーの片隅では、出演者と聖園子供の家の子どもたちが一堂に会し、駐日シンガポール大使ご夫妻がもみくしゃにされながら大写真撮影会となりました。

■ 支援の輪の広がり

リトル・クリエイターズの活動に関わったことがある東京都石神井学園の卒園生４人が、陰になり日向になり今回のコンサートを手伝ってくれました。専門学校や大学に通いながら、あるいは社会人になって休みを取って石神井学園の子どもの世話をしたり衣装を考えたり、海外出演者を空港まで送迎したりと大活躍でした。学園を離れても、違う形で活動に戻って来てくれる卒園生に感謝すると同時に、彼らの居場所として、このコンサートの充実を図らなければと感じています。
また、『チャイルド・エイド・アジア』OG、OB の活躍もめざましく、代役を務めたり、譜めくりをしたり、リハーサル会場の片隅で小さなワークショップをしている者もいて、私たちの活動が手を離れて少しづつ大きくなっているような気がします。
『チャイルド・エイド・アジア』OB・OG の保護者をはじめ、ボランティアで協力してくださる方も増えており、お願いしたわけでもないのに気がつくと楽屋で掃除をしてくださっていたり、児童養護施設の子どもたちに食事を食べさせてくださったりしてくださいます。こうした自発的な活動の積み重ねのおかげで、本コンサートが実現しているのです。
お客様からの支援は一層あつく、約 300 人の観客から 132,319 円ものご寄付を頂戴しました。1 銭足りとも無駄にせず、若い才能の活躍の機会提供や恵まれない環境の子どもたちの表現活動支援のために使います。

次回の『ChildAid Asia2018』は、2018 年 5 月 20 日にサントリーホールで開催される予定です。

【交流事業】

1）児童養護施設東京都石神井学園 X Friendship コンサート海外出演者全員

主催：NPO リトル・クリエイターズ

フード・スポンサー：SAKANEKE & Co.

会場：池袋メトロポリタンホテル

日時：2017年3月27日　11：30-13：30

石神井学園の出演者、手伝いに来ている卒園生、海外からのコンサート出演者で昼食交流会を開催。交互に日本の子供と海外の子供の席を作り、言葉が通じない中でジェスチャーや大人の助けを借りて自己紹介をしたり互いの国の食べ物の話をしたり、交流を深めました。また、ホテルという会場を借りてのことだったので、リトル・クリエイターズでは少しばかりのテーブルマナーを施設の子どもに伝えることもできました。

【文化体験事業】

1）日本庭園鑑賞

海外出演者は小石川後楽園を訪れ、日本の庭園文化について説明を受けました。回遊式のお庭を回りながら、見立ての文化を学ぶと同時に桜の花を観賞しました。

2）風鈴絵付け体験

海外出演者が全て暑い国の出身ということもあり、日本ではどう暑い夏に涼むかという説明を受け、風鈴の絵付けを体験しました。絵付けをする風鈴を選ぶにあたっては、皆が音へのこだわりを見せていました。その後、風鈴は音で涼むと同時に、風鈴に描く絵も金魚や花火などであれば日本人には涼しいと感じられるという説明を聞いて、冷房などの電気製品を大量に生産する国なのに面白いという意見がでました。約１時間絵付けをして作品を完成させた後、工房のご厚意で、実際にガラスで風鈴を吹く体験もし、ガラス工芸の難しさと美しさを学びました。

3）尺ハミニ体験

『チャイルド・エイド・アジア』OG の中島麗さんが、リハーサルの合間に尺八の説明とその吹き方を日本人と海外からの出演者に披露しました。実際に吹いて見ようと試みる出演者もいましたが、見た目ほど簡単ではないことに驚かされた様子でした。

『チャイルド・エイド・アジア』と『Friendship コンサート』
２つのコンサートを開催する理由

『チャイルド・エイド・アジア』は、シンガポールのチャリティ・コンサート「ChildAid」との提携により、2011 年に日本で初めて開催しました。音楽的才能豊かな子どもを国内外からオーディションで選抜し、彼らの演奏によって、恵まれない環境に暮らす子ども、特に児童養護施設で生活する子どもに芸術を通じた国際交流の機会を提供し、留学などの費用を集めることが主な目的です。同時に、児童養護施設の子どもの自己表現の場としても活用してきましたが、2013 年、2014 年と回を重ねるごとに参加国が増え、コンサートが認知され、質が高くなってくると、児童養護施設の子どものように音楽の訓練を受けていない子どもが参加できる範囲が限定されるようになりました。同時に国際交流の視点からも彼らがかかわれる機会が減ってしまいました。

『チャイルド・エイド・アジア 2014』終了後に、出演した児童養護施設の子どもたちから「自分たちももっと出たい、もっと海外の友だちを作って親しくなりたい」という声が挙がりました。自分の存在をアピールする機会がほしい、誰かに認められたい、外の世界へ羽ばたいていきたい、という彼らの意思と受け止め、この子どもたちを中心に据えたコンサートを企画したのが『チャイルド・エイド・アジア～Friendship コンサート』です。現在では、『チャイルド・エイド・アジア』を偶数年に、『Friendship コンサート』を奇数年に開催しています。『チャイルド・エイド・アジア』が参加者数という観点から規模が大きく、質の高いクラシックを中心としたコンサートであるのに対し、『Friendship コンサート』は規模を縮小し、児童養護施設の子どもが舞台で中心的に活躍できるような構成を工夫するとともに、音楽だけでなく様々なジャンルの表現活動の発表やコラボレーションを取り入れたプログラムになっています。同時に、児童養護施設の子どもが海外の子どもや音楽的才能に恵まれた子どもたちとも分け隔て無いようにお互いがお互いを認め合える関係を、リハーサルやコンサート、交流会などを通して培っています。インクルーシブなコミュニティ作りの一つです。